「ゆめ」の文字は、ゆめ基金事業の支援を受け自主研究を実現できた学生に書いていただきました。
「ゆめ」が実現できる学生の輪がさらに広がるようにとの想いを込めてデザインされています。

ご寄付の方法

大阪大学未来基金へのご寄付につきましては、さまざまな方法をご用意しております。
ホームページからご寄付のお申込みや払込取扱票の請求が可能です。

個人

クレジットカード・ATM・ネットバンキング

クレジットカードはホームページで手続きが可能です。
ATM・ネットバンキングは
お知らせする指定口座にお振込みください。

金融機関窓口払込

お送りする払込取扱票にて
窓口でお振込みください。

コンビニ払込

ホームページからの手続き後、
ご連絡する番号を
コンビニ端末で入力いただくか、
お送りする払込取扱票にて
コンビニでお振込みください。

定期的なご寄付

ホームページから定期的な
ご寄付の手続きができます。

リユースによるご寄付

ご不要の本、金券、ブランド品、
貴金属等のご寄付によって、
阪大生の「未来」を支援する
取組です。ホームページから
お申込みください。

クラウドファンディング

大阪大学のプロジェクトに対して
支援者が寄付する仕組みです。
ホームページからお申込みください。

法人

ホームページから本学所定の寄付申込書をダウンロードし、ご記入のうえ、メールもしくは郵送にて未来基金事務局までお送りください。申込内容を確認後、本学から振込手続きのご依頼を送付させていただきますので、記載の指定口座へのお振込みをお願いいたします。入金確認後、寄付金領収書とお礼状を郵送させていただきます。

大阪大学
未来基金

大阪大学 未来基金事務局
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-8
TEL：06-6879-8327
E-mail：kikin@office.osaka-u.ac.jp

大阪大学未来基金ホームページ
https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp
大阪大学未来基金 検索

発行：2023年8月

大阪大学未来基金

― 活動報告書 2023 ―

大阪大学を応援いただいている皆さまへ ｜ 大阪大学未来基金状況のご報告

大阪大学 OSAKA UNIVERSITY

OU MASTER PLAN 2027 生きがいを育む社会の創造

総長ご挨拶

大阪大学総長　西尾章治郎

社会を創造する大学

～社会との共創を通して「生きがいを育む社会」の創造を目指します～

大阪大学未来基金を通じて、多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。

大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年記念事業の一環として、中之島キャンパス再開発事業により大阪大学中之島センターの機能強化のための改修工事を進めておりましたが、2023年4月にリニューアルオープンし、同月30日には「大阪大学中之島センター改修お披露目会」を挙行しました。改修後は、文化・芸術・学術・技術の「四つの知」が交差する社学共創、産学共創、アートのグローバル発信拠点を形成することをコンセプトに、多様なステークホルダーの皆さまと共創（Co-creation）する施設に生まれ変わりました。このセンターを中心に中之島地区の諸機関や企業との学術・文化・アートのネットワークを構築し、大学から社会への知の還元という一方向のみならず、大学と社会が協働して課題を見いだし、新たな知とイノベーションを生み出す社学共創活動をより一層推進してまいります。

大阪大学は、かねて大阪の地に根づいていた懐徳堂・適塾以来の市民精神を受け継ぎ、「地域に生き世界に伸びる」をモットーとして、それぞれの時代の社会課題に応えてまいりました。

昨今、「コロナ新時代」という時代の大きな転換点を迎え、カーボンニュートラルやSDGsの実現による持続可能な社会を目指した変革が進む中、大学に対する人材育成やイノベーション創出への期待は一層高まっています。そのような中、大阪大学では、単に「社会に貢献する」ということに止まらず、一歩踏み込み、社会との共創を通して、地域から世界全体に及ぶさまざまな課題を解決し、「生きがいを育む社会」を創造する大学となることを目標に掲げています。より具体的には、個々人が社会で活躍できる寿命を延伸させ、あらゆる世代がその多様性を活かすことで社会を支え、豊かで幸福な人生を全ての人が享受できる社会。それが大阪大学の目指す理想の社会像です。その実現には、社会が抱える複雑かつ困難な課題の解決が必要です。大阪大学は産業界のみならず、市民や地方自治体、国際機関など、多様なステークホルダーとの共創を通じて、新価値創造と卓越した人材の輩出に邁進し、さまざまな社会課題の解決に果敢に挑戦してまいります。

自らが理想として掲げた「生きがいを育む社会」の創造を目指し、大阪大学はこれからも、50年後、100年後そしてさらにその先の未来を見据え、長年の伝統の中で培ってきた知の集積、育成してきた人的リソースを最大限に活かし、新しい時代と社会の要請に応えるべく教育・研究を一層充実させてまいります。大阪大学未来基金は、2009年の設置以来、多くの皆さまからの温かいご支援により、順調にその規模を拡大してまいりました。本学の学生、教員、研究者が未来社会の「ゆめ」の実現に向けた「ゆめ基金」を始め、世界に羽ばたくための多様な教育研究事業に活用させていただいております。

卒業生・保護者や地域の皆さまを始め、企業・団体等の皆さまには、引き続き大阪大学未来基金に温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

未来基金の状況

大阪大学未来基金の受入総額は123億円に

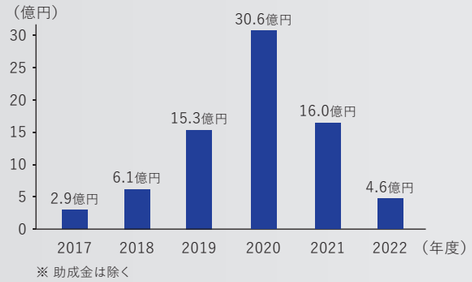
大阪大学未来基金の受入金額は、2023年3月に累計123億円に達しました。温かいご支援を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。皆さまからのご寄付は、本学のさまざまな事業に有効活用させていただいております。

当基金の設置当初（2009年5月）から2023年3月末までの収支状況は、以下のとおりとなっております。基金残高は、大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年記念事業「中之島キャンパス再開発事業」の拠出等により、約50億円となりました。

当基金は、卒業生を始め、地域社会、企業・団体など多くの皆さまのご支援に支えられてまいりました。感謝の気持ちを忘れずに、大阪大学未来基金事業をさらに活発化してまいりたく、今後とも何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

理事（共創担当）・副学長　金田 安史

●寄付額の推移（年度別）



※ 助成金は除く

●収支状況

内訳		累計額（億円）
収入	寄付受入	120.5
	運用益	2.4
	小計	122.9
支出	基金事業への支出	71.9
	活動費	0.9
	小計	72.9
基金残高（2023年3月31日現在）		50.0

※1 助成金は除く　※2 小数点以下第2位を四捨五入　（2009年5月～2023年3月）

未来基金の概要

大阪大学は、社会の安寧と福祉、世界平和、人類と自然環境の調和に貢献する大学となることを志し、多様な知の協奏と共創によって、学問の真髄を極める高いレベルの教育研究を追求しています。また、新たな学問領域の創成、専門分野を超えた知の統合学修を通じて、地球規模の社会問題を解決し、人間性豊かな社会の創造に大きく貢献する人材を輩出します。

大阪大学未来基金は、これらの活動を支える基盤として、学生の活動や教育研究、国際交流、社会連携等、幅広い支援活動に活用させていただきます。

大阪大学
未来基金

（未来社会に向けて）

ゆめ基金

特定基金

（特定の目的に向けて）

未来社会の「ゆめ」を実現させるため大阪大学を応援していただく基金で、この基金の運用益を元に、未来を支える学生支援、教育研究支援、国際交流支援、社会連携支援等の事業に活用させていただきます。

使途を特定したプロジェクトをご支援いただくために募集をしているものです。
●全学プロジェクト　●修学支援・研究者等支援のプロジェクト
●学部・研究科等のプロジェクト　●課外活動等のプロジェクト　●冠プロジェクト

目次

- 総長ご挨拶／未来基金の状況　P2-3
- 大阪大学中之島キャンパス再開発事業　P4-5
- ゆめ基金の活用　P6-7
- 特定基金の活用　P8-11
- クラウドファンディング　P12-13
- 人生の集大成としての「遺贈」　P13
- 応援の声　P14
- 顕彰　P14-15
- 紺綬褒章　P15

大阪大学中之島センターをリニューアルし、再オープンしました

大阪大学中之島センターは、大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年記念事業「大阪大学中之島キャンパス再開発事業」により、文化・芸術・学術・技術という「四つの知」が交差する社学共創、アート、産学共創のグローバル発信拠点の形成を目指した大規模改修を進めてまいりました。この度、改修工事が完了し、2023年4月1日にリニューアルオープンいたしました。「大阪大学中之島キャンパス再開発事業」にご寄付いただいた皆さま、ありがとうございました。

1階、2階はオープンスペースとし、2024年度に周辺施設とデッキで繋がるミュージアム・カフェ、3階、4階は本年4月に発足した中之島芸術センター、5階はいのち共感ひろば、6階、7階、10階は多様なセミナー室やホールなどを備え、8階は会議室、9階には高級感のある岸本忠三交流サロンを設けております。学会やセミナー等に積極的にご活用いただくとともに、近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。

■カフェテリア・アゴラ（2F）

本学の文化・歴史と芸術が織りなすコミュニケーションスペース。リーガロイヤルホテル直営店こだわりの料理やデザートをお楽しみいただけます。

■カンファレンスフロア（8F）

大会議室や中会議室があり、同窓会や会合に利用可能。
特別会議室は12名がゆったり座れるあつらえになっております。

大阪大学中之島センター
〒530-0005 大阪市北区中之島4丁目3-53

詳しくはこちらをご覧ください
https://www.onc.osaka-u.ac.jp/

大阪大学中之島センター改修お披露目会を挙行しました

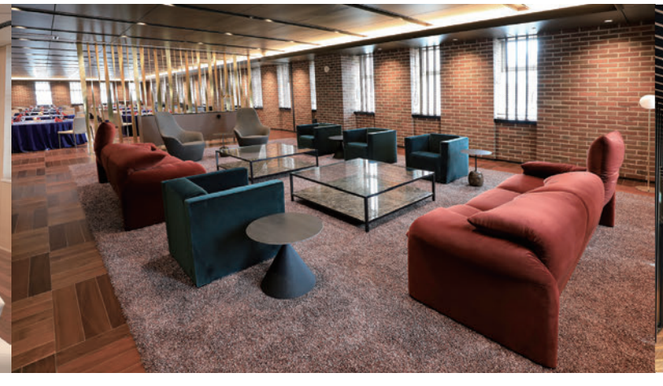
2023年4月30日、大阪大学中之島センター改修お披露目会が、約170名列席の下挙行されました。お披露目会は、本学卒業生の小川 真由氏（フリーアナウンサー）の司会により行われ、式辞として、西尾 章治郎総長から、当センターに文化・芸術・学術・技術という「四つの知」が交差する発信拠点の形成を目指すために大規模改修を行ったこと、また、上述に賛同し、温かいご支援とご協力をいただいた列席者ならびに大阪大学を支えてくださっている全ての方々へ、感謝の意が述べられました。

続いて、公益財団法人稲盛財団理事長 金澤 しのぶ様、サントリーホールディングス株式会社代表取締役副会長 鳥井 信吾様、大阪大学元総長・大阪大学同窓会連合会会長 岸本 忠三先生からお言葉を頂戴しました。

その後、大阪大学中之島センター長の金田 安史理事・副学長からセンター改修の概要説明があり、続けて本学総長・元総長等によるテープカットが華やかに行われました。

お披露目会終了後、改修により新しく生まれ変わった本センターの施設内を見学いただき、盛会裏に終了しました。

是非お気軽に
お立ち寄りください！



■岸本忠三交流サロン（サロン・アゴラ）（9F）

講演会・晩餐会・立食パーティなどあらゆるシーンにご利用いただけます。

■佐治敬三メモリアルホール（10F）

講義・講演や各種シンポジウムなど幅広くお使いいただけます。

ゆめ基金の活用

他にも多くの感謝のメッセージが届いています。是非ご覧ください！
https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp/express_gratitude/

～ ゆめ基金、それは未来の社会の「ゆめ」を応援する仕組みです ～

さまざまな夢が世の中にはあります。夢の実現には、ともすれば地域から世界全体にまで及ぶさまざまな課題の解決が必要かもしれません。大阪大学は「多様性の尊重と豊かな時間により、自由な発想と高い知性を育む」という理念のもと、社会との共創を通して、「生きがいを育む社会」に向けた「夢」に末永く寄り添い続けます。

本学は創立以来、10数万人に及ぶ卒業生と世界最先端の学術研究の成果を社会に還元してまいりました。多くの卒業生が、企業・官公庁・教育研究機関・医療機関などさまざまな分野の第一線で、そして世界中のいたるところで活躍しています。また、本学の研究成果は、社会や企業の課題解決に繋がるイノベーティブな製品・サービス、健康長寿社会を実現する医薬品開発などに活かされてきました。

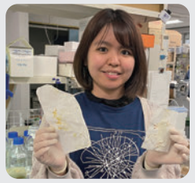
「ゆめ基金」は、本学の伝統を受け継ぎ、未来社会への貢献を継続するため、海外への留学・インターンシップ、学部生の意欲的な自主研究、若手研究者の学会発表、課外活動の表彰、さらに激甚災害で保護者の方が被災され経済的に支援が必要な際の本学の学部生・大学院生への特別奨学金給付などに活用させていただいております。

お一人おひとりのご支援が、長い年月にわたり繋がることで、支えられる活動はさらに大きくなり、これら全てのご支援を通じて、本学の卒業生や研究成果による未来の社会の「ゆめ」への貢献に繋げる、それが「ゆめ基金」です。卒業生を始め、広く地域の方々や企業・団体等の皆さまに、「ゆめ基金」へのご支援をお願いいたします。

自主研究奨励事業

粘菌の条件付けによる受容器官と学習記憶メカニズムの解析

仲間 菜々子　医学部医学科4年



私は「粘菌の条件付けによる受容器官と学習記憶メカニズムの解析」という研究を行いました。かねてより粘菌を飼育しており、自宅でできる実験に限りがあることに頭を悩ませていたところ、今回の自主研究奨励事業に応募し、採択していただきました。

粘菌は単細胞生物でありながら、迷路を解くことができるなど、さまざまな行動を見せます。私はその中で触覚に注目し、粘菌が飼育されている培地の硬さを認識していること、培地の硬さによって餌の場所を学習できる可能性があることを発見しました。また、これらの触覚に関わる可能性のある遺伝子を推定し、実験を行うことでこの遺伝子の関与も見出しました。

今回研究した遺伝子は、ヒトを始めとしたさまざまな細胞にも存在しているため、発生学や病態研究にも応用できるのではないかと考えております。今後も研究を続け、粘菌の触覚に関わる遺伝子の同定を目指したいと考えています。

ナミハンミョウの特異な構造色の発色原理解明

伊藤 和真　工学部4年

私は「ナミハンミョウの特異な構造色の発色原理解明」というテーマで約半年間研究をさせていただきました。光学顕微鏡や分光器の他、走査型・透過型電子顕微鏡、さらに光学シミュレーションまで、学部3年生であった当時ではなかなかできない体験をさせていただきました。

その際、普段は論文を読んでいてもあまり意識しないような試料作製手順なども実際に行ってみると想像以上に骨の折れる作業だと分かり、研究の大変さが身にしみました。

本研究によって、ナミハンミョウ前翅の多色性起源については赤、緑が多層膜干渉によるもの、紺と白は色素に関連するものだと分かりました。さらに、前翅と腹側の光沢感の違いが表面の凹み構造の有無によるものと分かりました。今後は構造色等の生物の構造や機能を新しい技術やものづくりに活かすような研究をしていきたいと考えています。

公共交通機関の公共性とは何か ～日英欧の交通アクセシビリティから考える～

上野 一志　文学部3年

私は、バリアフリーと公共交通政策について研究しました。視覚障がいの方へのボランティア活動の経験で感じた問題点を、イギリスのバリアフリー政策から解決案を提案するというもので、イギリスの鉄道行政や日本におけるバリアフリー政策について研究する書籍を購入させていただきました。

今回の研究は、イギリスではこうだからというのではなく、日本で導入するにはどのような障壁があるかという研究で、国交省の方や所属している兵庫盲導犬協会の皆さまにさまざまなご協力をいただきました。

自分自身、学部の枠にとらわれているような研究をしていてはいけないと強く感じております。今回の研究は歴史的な観点からイギリスの鉄道にアプローチし、公共政策的な観点、技術的な観点から解決案を提案しました。そのような学際的な研究ができなければならない時代になり、それがアカデミックな世界に求められているのだと思います。

「男性問題」の語りにくさとケアの倫理 ―パートナー関係における男性性についての考察を手がかりに―

三原 悠佑　法学部4年

本研究においては、理論的に非常に複雑な問題をはらむ「男性の生きづらさ」について、倫理学の理論の一つである「ケアの倫理」を応用しました。

ケアの倫理は、近年かなり注目度が高まってきている一方で、重要な文献の多くが絶版であり、私費での入手が難しい状況にあります。人文学における研究の要ともいえる文献を入手するにあたって、本事業により多大なるご支援をいただきました。

初めての研究活動でしたが、アドバイザーの先生のご尽力と、本事業からのご支援があったからこそ、約半年もの間、楽しく充実した研究活動に臨めました。今後も研究活動に邁進したいと考えておりますが、そのように思えたのもこの度この素晴らしい機会をいただけたからこそです。本当にありがとうございました。

学生課外活動等支援事業

体育会弓道部　女子副将　前田 桃佳　外国語学部4年

この度、未来基金のご支援により、弓道場の的場安土補修工事を実施させていただきました。多大なご支援をいただきましたこと、部員一同心から感謝申し上げます。

安土とは的を設置するための盛り土のことであり、弓道を行うには欠かせない設備です。補修工事実施前は長年の使用により土が劣化して非常に崩れやすくなっていたため、的が既定の場所に設置しづらく、矢も土にうまく刺さらない状態でした。今回のご支援により、劣化していた土が一新され、日々の安土整備や的の設置がより効率的で正確なものになり、練習の質の向上に繋がりました。

これからもご援助いただいたものを最大限活用し、リーグ昇格という目標達成に向けて日々練習を重ねていきたいと思っております。改めて、この度はご支援いただき本当にありがとうございました。

ハワイ大学マノア校夏季語学研修プログラム

北條 侑佳　法学部3年

私は2022年8月にハワイ大学マノア校夏季語学研修プログラムに参加しました。

非常に多くの学びを得た日々でしたが、中でも印象に残っているのは、現地の人々の温かさに触れたことです。彼らは、話す言葉も肌の色も国籍もちがう私たちのことを、色眼鏡で見るのではなく、そのちがいを当然のように受け入れ、ひとりの人間として接してくれているようでした。さまざまな国籍の人が、バックグラウンドを持つ人が街を行き交う、まさに多様性の体現ともいえるハワイだからこその人々のぬくもりに、幾度も心を打たれました。

また、言葉を自在に操れることは非常に強い武器であるということを身にしみて感じました。相手に伝え、また相手を理解することに止まらず、人との繋がりの輪も自分自身の視野も広げられることを実感しました。これから先も学びを止めることなく、語学という強い武器を磨いていきたいと思います。

本助成金のご支援により、宝物のような時間を過ごすことができました。この度は本当にありがとうございました。

外国人留学生の受入れ及び本学学生の海外派遣に係る経済的支援事業

海外フィールドスタディS「生物資源と環境」

足立 綸　工学研究科博士前期課程2年

昨夏に35日間のタイ研究留学プログラムに参加いたしました。コロナウイルスの影響でプログラム開催が危ぶまれる中での心強いご支援に、心から感謝申し上げます。

私はモンクット王トンブリ工科大学で、廃木材に含まれる成分の有効利用を探求する研究に取り組みました。研究活動の中では、実験失敗の原因を突き止めるために周囲の学生と意見交換をしたり、先生とのディスカッションに粘り強く取り組みました。

その結果、成果を得ただけでなく、対話力と問題解決能力が向上したと感じます。さらに、異文化の生活で価値観を広げたことは、帰国後のキャリア設計にも活かされました。また何より、約1ヶ月という短期間で成果を出した経験は大きな自信に繋がりました。

今回の留学で身につけた能力と自信を活かし、今後の研究活動やキャリアにおいても困難に挑戦し続けます。

夏季ヒンディー語集中講座 (Summer Hindi Intensive Learning Program, SHILP)

武田 萌花　外国語学部3年

この度は「SHILP(Summer Hindi Intensive Learning Program)」に助成金をいただきありがとうございました。

1ヶ月プネーという街に滞在し、ティラク・マハーラーシュトラ大学でヒンディー語を学びました。インドでの生活は大変なこともあり、食事にスパイスが効きすぎていてあまり食べられなかったり、飲み水を飲んでいてもお腹が痛くなったり、また道路の通りが危険で1.5㎞先の店に行くのも苦労したり、日本での生活が全く当たり前ではなかったことを痛感しました。

しかしインドの人々は大らかで、道端でチャイを飲みお喋りをしている人が多く、時間の流れが非常に穏やかに感じました。また、私たちが困っているときは街のたくさんの人々が集まり助けてくれました。そうして次第にインドの生活に適応していきました。

最後に、本助成金を始め我々をサポートしてくださった先生方や現地の学生など、関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。

特定基金の活用

～ 使途を特定したプロジェクトをご支援いただくための基金です ～

PICK UP! 1 修学支援・研究者等支援のプロジェクト　**PICK UP! 2** 学部・研究科等のプロジェクト
PICK UP! 3 課外活動等のプロジェクト　**PICK UP! 4** 全学プロジェクト　■ 冠プロジェクト

未来基金ホームページの「特定基金」から、カテゴリー、キーワードを入力して検索していただけます。

PICK UP! 1 修学支援・研究者等支援のプロジェクト

●**大阪大学修学支援事業基金** ・・・ 意欲にあふれる優れた学生が、未来を切り拓く「知の探究者」として輝けるように、経済的な理由により修学が困難な学生を支援させていただきます。

●**大阪大学研究等支援事業基金** ・・・ 不安定な雇用状態にある研究者等が自立した研究者として行う研究活動や成果発表、異分野の研究者との交流等の支援のために活用させていただきます。

「大阪大学修学支援事業基金」及び「大阪大学研究等支援事業基金」への個人の方からのご寄付については、他の未来基金同様の「所得控除」に加えて、「税額控除」も適応対象となります。確定申告の際、「所得控除」、「税額控除」のいずれかを選択いただけます。

PICK UP! 2 学部・研究科等のプロジェクト

3研究科より、ご支援のお礼と活動報告を申し上げます。

◆ 工学部・工学研究科教育研究事業

大阪大学大学院工学研究科／工学部

工学研究科長
桑畑 進

Industry on Campus

工学部・工学研究科は、企業とアカデミアが融合するという着想のもと、Industry on Campusを掲げ、産学連携の積極的な展開、次世代リーダーの育成を推進しております。「工学部・工学研究科教育研究事業」は、次世代リーダーとなり得る学生が勉学と研究に集中できる環境の整備を目的に支援を募ってまいりました。皆さまのご支援のもとで、福利厚生施設の充実、学生の海外派遣や留学支援等、工学部・工学研究科における教育研究の充実を図ることができましたこと、深く感謝申し上げます。

当研究科では、2020年度より、OUエコシステムを実践するプラットフォームであるテクノアリーナを発足させ、分野の枠を超えた研究交流、産学連携、及び若手研究者の育成等を支援してまいりましたが、将来的には、キャンパス整備とも一体と捉え目に見える形での連携融合を推し進めたいと考えております。

工学研究科の魅力溢れる未来図を描けるよう、ご支援は大切に使用させていただきます。どうか引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

学生の海外派遣

福利厚生施設（センテラス）

福利厚生施設（センテラスサロン）

◆ 経済学部・経済学研究科教育研究事業

経済学研究科長
開本 浩矢

経済学部・経済学研究科創立75年に向けて

経済学部・経済学研究科ではご支援いただいた基金を活用し、国内外の企業・行政・地域・卒業生を含む多彩な人材の交流と参加を実現するための「場」として、オープン・ファカルティー・センター（OFC）を運営しております。OFCでは学内外の講演者を招き学術講演会を継続的に行うとともに、野村証券、投資顧問業協会などと連携し学生向けの産学連携講義を積極的に行っています。こうした取組により、学生に最先端のビジネス情報を提供し、経済学を学ぶ意義を再確認することで将来のキャリア形成に繋げてほしいと願っています。また、昨今のグローバル化の進展を踏まえ、学生の留学を積極的に支援する取組も行っています。

経済学部・経済学研究科は2024年には創立75周年の節目を迎えます。歴史ある経済学部・経済学研究科をますます発展させ、高いレベルの研究教育力を有する卒業生・修了生を輩出すべく奮闘していきたいと考えております。皆さまからの引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

留学成果報告会

第66回OFC講演会

◆ 理学部・理学研究科教育研究事業

OSAKA UNIVERSITY
School of Science, Graduate School of Science

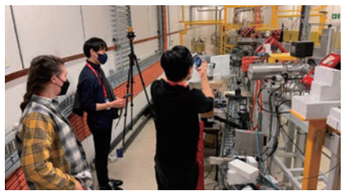
理学研究科長
深瀬 浩一

糟粕（そうはく）を嘗（な）むる勿（なか）れ

理学部・理学研究科は、初代総長長岡半太郎博士の“糟粕を嘗むる勿れ（独創的であれという意味）”の理念のもとに、新たな知の発見と物質観の創成に加え、次世代の研究者やさまざまな分野で国際的に活躍する人材の育成、グローバルな教育環境・教育システムの整備、地域社会への貢献を使命と考えております。

2015年3月に「理学部・理学研究科教育研究事業」を設置し、これまでに多大なご支援をいただいており、心より感謝いたします。本事業では、海外留学奨学金の支給や英語試験受験料一部補助を行っております。教育研究環境整備のために2017年に理学研究科教育研究交流棟（理学J棟）を設置し、その中に2008年ノーベル物理学賞受賞者の南部陽一郎大阪大学特別栄誉教授の業績を称え、南部陽一郎ホールを整備し、公開講座サイエンスナイトなどさまざまなセミナーや講演会を開催しております。その他にも留学生支援、研究活動支援などさまざまな目的に利用しており、ご支援に深謝いたします。今後とも本事業への特段のご厚意、ご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

留学先の大学の学生寮の様子


学生の実験の様子

留学先の大学にて

PICK UP! 3 課外活動等のプロジェクト

3団体の学生、大学生活サポート事業よりご支援のお礼と活動報告を申し上げます。

体育会硬式野球部支援事業

体育会硬式野球部 部員一同

春季合宿の様子

リーグ戦の様子

大阪大学体育会硬式野球部です。先輩方、保護者、その他弊部関係者の皆さま、平素より応援、未来基金を通してのご支援をいただきまして誠にありがとうございます。日頃より練習前には環境整備の時間を設けネット補修等を行っておりますが老朽化は避けられず、皆さまからのご支援よりネット類を始めとする野球用具を購入させていただいております。

2023年1月末から3月末にかけては、大規模な環境整備事業の実施のため皆さまにご支援、ご協力をお願いさせていただき、わずか2ヶ月でおよそ300万円のご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。

我々は現在、近畿学生野球連盟のII部リーグに所属し、I部リーグ昇格を目指して日々練習に励んでおりますが、直近の2022年度秋季リーグでは5位という悔しい結果に終わりました。2023年度のリーグ戦でも雪辱を晴らすべく一戦必勝で戦っています。

最後になりますが、今後とも弊部へのご支援のほどよろしくお願いいたします。

体育会柔道部支援事業

体育会柔道部 部員一同

乱取りの様子

レッグプレスによる筋トレの様子

懸垂バーによる筋トレの様子

大阪大学未来基金を通じ、体育会柔道部へ継続してご支援をいただき、誠にありがとうございます。

阪大柔道部が優勝を目指す「全国国立七大学柔道優勝大会」は、戦前の高専大会の流れを唯一引継ぎ、今年で72回を数える伝統ある大会ですが、昨今は学生の運動部離れのため、部員確保に苦労しております。

未来基金により、七大学柔道主催のフランス遠征参加費やトレーニング機器購入費、新入部員への阪大のネーム入り柔道着の進呈等に多大な助成をいただき、お陰様で2017年以降の七大学戦では、2位、3位、優勝の成績を収めることができました。コロナの影響で2020年、2021年の七大学戦は中止となりましたが、2022年はようやく仙台で開催することができました。

今後も部員一同その増強を図り、試合での活躍を期して日々の錬磨に励んでまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願いいたします。

大阪大学交響楽団支援事業

大阪大学交響楽団
公式YouTubeチャンネル

大阪大学交響楽団 団員一同

2023年1月15日 第120回定期演奏会

サークルオリエンテーション時の様子

大阪大学交響楽団です。団員の保護者の方々、先輩方、大阪大学未来基金にご寄付いただいている方々を始めとして、当団を応援してくださっている全ての方々に感謝申し上げます。

大阪大学未来基金を通して皆さまからいただきました寄付金は、練習場所の確保や活動運営費として私たちの活動に利用しております。

2023年1月15日には、第120回定期演奏会を開催いたしました。記念すべき第120回ということで、ザ・シンフォニーホールにて盛大に開催し、約1,300人ものお客様にご来場いただきました。団員たちは、コロナ禍でも懸命に練習に勤しんだ集大成となる演奏を、多くの方々に届けることができました。

今後とも、年2回行う定期演奏会を中心にさまざまな演奏活動を行い、たくさんのお客様に私たちが奏でる音楽を届け、元気や感動を与えられるよう邁進していきます。

引き続き、大阪大学交響楽団に温かいご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

大阪大学「ワニ博士」

PICK UP! 4 全学プロジェクト

昨年度イベントを行った全学プロジェクトよりご支援のお礼と活動報告を申し上げます。

大学生活サポート事業

2022年12月5日～11日に、学生団体応援チャリティーイベント「Giving Campaign 2022（運営：株式会社Alumnote）」を実施しました。全学公認または学部公認団体のうち62団体がこのイベントに参加し、イベントを通じた企業協賛金と、応援イベントに参加いただいた方からも多くのご寄付をいただきました。

企業協賛金やイベント期間中に皆さまからいただいたご寄付は、学生団体の活動のための備品購入や施設使用などに使ったり、特定基金「大学生活サポート事業」へのご寄付として取り扱い、今後の課外活動支援に使用させていただきます。

Giving Campaign 2022に参加した18の国立大学法人の中で、本学は最も多い14,000件を超える応援投票をいただきました。このイベントを通じて、数多くの応援コメントをいただくとともに、大阪大学未来基金に初めてご寄付いただいた方も多数いらっしゃいました。ご支援いただきました皆さま、ありがとうございました。

クラウドファンディング

2018年よりインターネットを通じ、一般の支援者の皆さまから寄付金を募るクラウドファンディングを実施しております。皆さまからの力強いご支援をいただき、これまで26件のプロジェクトが成立し、研究教育活動・社会貢献活動に累計8,000人を超える方々から2億3千万円以上のご支援が集まりました（2023年3月末時点）。今後も本学の持つ知を広く社会に還元し、イノベーションを推し進め、世界に羽ばたく人材を輩出するためのさまざまなプロジェクトを実現すべく、皆さまからの力強いご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

PICK UP! 1 “安全安心”の、スポーツによる健康社会づくりを目指して

寄付総額：6,330,000円　寄付者：131人　募集終了日：2022年10月21日

医学系研究科医学専攻
中田 研 教授

コロナ禍の運動不足から、安全に高い身体活動レベルに戻り、「スポーツによる健康社会」を目指して、大阪大学の研究成果を広く世界で活用できるインターネットアプリの開発を行いました。ご賛同いただいた多くの皆さまに心より感謝申し上げます。

皆さまからのご支援と、スポーツ庁や文部科学省、AMED、多くの大学内外の研究グループ、企業、医療機関、自治体、スポーツ団体、スポーツ選手やコーチ、患者さんと協力してきた研究成果から、「安全なスポーツ活動」がどこでも実施でき、その結果がすぐにわかるインターネットアプリが完成しました。このプロジェクトから、さらに多くの人が「スポーツによる健康社会」の一員として活躍する仕組みの発展が期待されます。皆さまからの暖かいご支援に重ねて御礼申し上げます。

応援の声

開業医
高島 孝之 様

五十年来の友人、中田研先生からクラウドファンディング立ち上げのお話を伺いました。“安全安心の、スポーツによる健康社会づくりを目指して”は、まさに私自身自らの整形外科クリニック運営の根幹そのものでありましたので、この企画に非常に感銘を受け、また同級生として深い縁も感じました。

スポーツが学校教育の場やアスリートだけのものだけでないことは今や社会的に認知されています。ここにAIの活用、アプリの開発等により、さらに大きく社会貢献への一歩を踏み出すことと確信し、心から応援申し上げます。

PICK UP! 2 骨盤臓器脱で悩む女性が受診しやすい社会へ

寄付総額：10,630,000円　寄付者：250人　募集終了日：2023年1月26日

医学系研究科保健学専攻
遠藤 誠之 教授（右）

助産師 兼 看護師
土居 愛実（左）

骨盤臓器脱の症状に悩みながらも、医療機関になかなか行けず1人でその悩みを抱える患者さんを減らしたい。そのために骨盤臓器脱についての情報を広めていくことを目指して、クラウドファンディングを立ち上げました。この活動にご賛同いただき、ご寄付を賜りました皆さまには心より感謝申し上げます。

現在、芸術大学と専門団体の先生方の協力を得ながら、理解しやすい資料（動画やぬいぐるみなど）を作成して、情報を発信していく準備を進めています。症状を抱える方々だけでなく、将来骨盤臓器脱になる可能性がある全ての女性、そして女性の周囲にいる全ての方々に骨盤臓器脱について知っていただき、骨盤臓器脱で悩む女性が気軽に相談できる社会となるよう活動を行ってまいります。お寄せいただいたご関心、多くのご支援と温かい応援のお言葉に改めて厚く御礼申し上げます。

応援の声

開業医
加藤 宗寛 様

多くの女性が生涯に何度か体験する尿もれや陰部の不快感。私のレディースクリニックでは、尿もれや骨盤臓器脱の治療・予防に取り組んでおります。

この度、大阪大学医学系研究科産科学婦人科学教室の同門の遠藤教授から、「骨盤臓器脱で悩む女性が受診しやすい社会へ」プロジェクトの立ち上げと趣旨のお知らせいただき、些少ながら寄付をさせていただきました。

このような素晴らしい草の根プロジェクトが次々と立ち上がり、地域に根付いた教育や研究が発展していくことを、心よりお祈り申し上げます。

大阪大学クラウドファンディング
https://readyfor.jp/lp/osaka_univ/

ご支援ありがとうございました！

2022年度
達成率100%

PICK UP! 3 誰もが自分に合ったメンタルヘルスアプリを安心して使うために

寄付総額：2,525,000円　寄付者：160人　募集終了日：2022年4月15日

人間科学研究科
村中 誠司 助教

私たちのプロジェクトは、心理ケアを目的としたアプリケーション（以下、アプリ）を今よりも安全に届けられるように、その基準を米国から輸入するためのものです。日本にはそのような基準がなく、配信されているアプリは玉石混淆です。私たちはそこに問題意識を感じて、このプロジェクトを立ち上げました。現在は40名程度の専門家と連携しながら日本版の基準を開発しています。また、この取組をきっかけに産官学連携ネットワークが拡がり、社会的な意義をますます感じております。今後は、この基準を使ったアプリ評価のデータベースを開発して日本で活用できる形に落とし込みたいと思っています。応援いただきました皆さまに深く感謝申し上げます。

応援の声

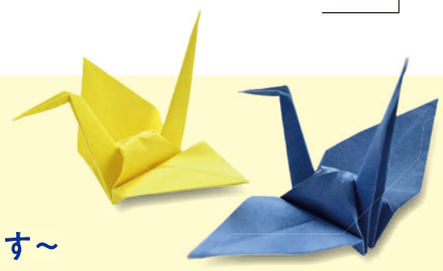
企業経営者
石井 遼介 様

良好なメンタルヘルスを保つことは、私たちの社会生活において重要です。

私は、本業では「心理的安全性」をテーマに、生産性が高くしあわせな職場風土をつくるため、日々尽力しています。けれども、自分たちだけでは一人ひとりのメンタルヘルスにまではアプローチができません。このプロジェクトは、一人ひとりが自身に最適なメンタルヘルスアプリを手にすることに繋がり、ひいてはより良い職場風土づくりに繋がると考え、寄付いたしました。

寄付を通じて、実現したい未来が重なる誰かを応援することは、より良い未来を共創する素敵な一歩だと思います。これからも応援しています。

人生の集大成としての「遺贈」



～お一人おひとりの想いを未来に届けます～

「自分の生きた証を残したい」「人生の集大成としての社会貢献を実現したい」こうした大切な想いを本学に託してくださるご相談が、近年非常に増えています。

本学はこれまで卓抜した研究成果と社会で活躍する多数の人材を輩出してまいりました。さらに今後のビジョンとして、多様なステークホルダーとの共創による「生きがいを育む社会の創造」を掲げ、さまざまな社会課題解決に一層貢献していく所存です。こうした我々の取組や挑戦を通じて、共により良い未来社会を実現していくことができれば幸いです。

あなたは、どんな未来社会を実現したいですか。是非、大切な想いをお聞かせください。

お一人おひとりの想いに寄り添い、豊富な実績・経験を持つ担当者がご相談を承ります。まずはお気軽に、遺贈担当へお問合せください。

本学への遺贈等の税務

	相続税	所得税等
遺言によるご寄付	本学へご寄付いただいた財産は、非課税財産となります。（不当減少の場合には課税）	被相続人の方の準確定申告にて、寄付金控除があります。
相続財産によるご寄付	申告期限内にご寄付を完了され、申告時に寄付金領収書を税務署にご提出されることで非課税となります。（不当減少の場合には課税）	相続人の方の確定申告にて、寄付金控除があります。

応援の声

医学の発展のために

財団の設立当初より、認知症に関する研究にご支援させていただいてから6年になります。きっかけは、当財団設立者である故 住野 勇の長年連れ添った妻が認知症を患い、亡くなったことでした。

生前夫婦で話していた「残りの人生、困っている人を応援したい。住み慣れた大阪・関西を元気にしたい。」そんな想いから財団を設立し、大阪大学未来基金に「住野勇財団認知症研究支援基金」を創設させていただきました。

この6年間で、日本の大学初のブレインバンク・バイオリソースセンター開設に関わることができ、認知症だけでなく小児発達障害やパーキンソン病などの原因解明にも寄与されており、住野の志を継ぐ者としていささかなりともご支援できることがこの上ない喜びです。

引き続き、早い原因究明・治療開発に期待しております。

故 住野 勇 様

1958年　大豊産業(株)(現・(株)オートバックスセブン)取締役
1985年　同社 代表取締役副社長
1990年　同社 代表取締役副会長
1994年　同社 取締役相談役
2000年　同社 特別顧問
　同年　(財)在宅医療助成 勇美記念財団（現・(公財)在宅医療助成 勇美記念財団)設立 代表理事
2017年　(一財)住野勇財団設立 代表理事
2021年　逝去(享年100歳)

若い世代への期待を込めて

50年前、私は大阪大学に入学し、工学を専攻しました。それは、理科系の知識と技術を身につけ「ものづくり」に携わりたいと考えたからです。それから半世紀、技術者として研究開発の仕事に就くことなく現在に至りますが、工学部で培った探求とチャレンジの精神は、会社を経営する上で大いに役立っています。

日本が技術立国と言われ、日本製品が世界市場を席巻した時代の記憶は薄れつつありますが、大阪大学の若い力がリーダーシップを発揮し、日本の技術大国の地位を復活させてほしいと期待し、「工学部・工学研究科教育研究事業」に寄付いたしました。これからも応援しています。

米倉 彦之 様

1977年　大阪大学工学部冶金・金属材料工学科卒業
　同年　川鉄商事(株)（現・JFE商事(株)）入社
1981年　(株)美貴本 入社
1991年　同社 代表取締役社長(現在に至る)

大阪大学「ワニ博士」

ご寄付者への顕彰

●感謝状の贈呈

2万円以上のご寄付をいただいた皆さまに、総長から感謝状を贈呈いたします。

●ご芳名の掲載

未来基金ホームページ内の「芳名録」に掲載いたします。

●「大阪大学感謝の集い」にご招待

一定期間内に一定額以上のご寄付をいただいた皆さまを招待いたします。

紺綬褒章

紺綬褒章
https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp/privilege/

紺綬褒章は、公益のために私財を寄付された方などを、国として表彰する栄典の一つで、その栄誉のしるしとして授与されます。

本学は、内閣府賞勲局より認定を受けた紺綬褒章の公益団体です。大阪大学未来基金では、要件を満たした個人のご寄付者にご意向を確認の上、文部科学省に申請いたします。

大阪大学未来基金におけるご受章の要件	
ご寄付の金額	500万円以上(個人) ※ご寄付の目的・入金日が同一 ※複数回の受章が可能、1,500万円以上で木杯も授与
分納について	あらかじめお申し出をいただいた場合に限り、分納も可能
必要書類	・履歴書 ・戸籍抄本 2通
申請期限	大阪大学未来基金へのご入金日から起算して3ヶ月以内 ※分納の場合は、最終のご入金日から起算して3ヶ月以内
ご受章の決定	本学から文部科学省への申請後、 内閣府での審査(約1年～1年半程度)を経て決定

紺綬褒章

桐紋付きの木杯

飾版(銀)

飾版(金)

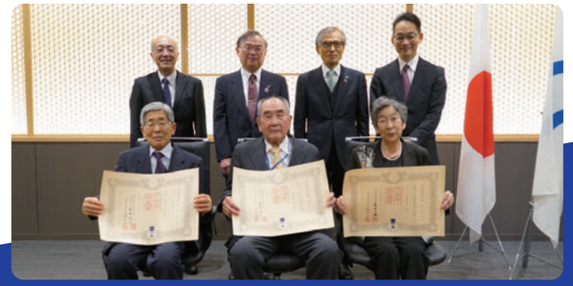
出典：内閣府ホームページ(https://www8.cao.go.jp/shokun/shurui-juyotaisho-hosho.html)を加工して作成

2回以上のご受章・高額(1,500万円以上)のご寄付について

●個人で2回以上受章された場合、その都度、飾版(銀)が授与されます。この飾版(銀)が5個以上に達したときは、5個ごとに金色の飾版と引き替えて授与されます。
●ご寄付額が1,500万円以上の場合は、併せて桐紋付きの木杯が授与されます。

◆紺綬褒章伝達式

紺綬褒章が授与されましたら、伝達式を開催し、西尾総長より伝達物を受章者にお渡ししております。



ご芳名の掲載について

累計50万円以上のご寄付をいただいた方には、ご意向を確認の上、ご芳名を大阪大学中之島センター・大阪大学会館に掲示させていただきます。

●大阪大学中之島センターでの銘板掲載

大阪大学中之島センター改修完了に伴い、2023年4月より同センターでのご芳名の掲示を再開いたしました。約3ヶ月に1回の頻度で更新しており、1階ロビーのオープンスペースにて掲載しております。皆さま、是非お立ち寄りください。

●大阪大学会館での銘板掲載

豊中キャンパス大阪大学会館階段踊り場に銘板を掲示しております。同会館の銘板につきましては、年度ごとの更新となります。